

道南太平洋海域スケトウダラニュース

令和2年度 第3号 2021年1月29日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

函館水産試験場 調査研究部

TEL : 0138-83-2893 FAX : 0138-83-2849

令和2年度道南太平洋スケトウダラ産卵来遊群分布調査（3次調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2021年1月18～21日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深50～500mの海域（図1右上）

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、昨年同期を大幅に上回った。
- ・ 魚群反応の強い海域は胆振沖（登別沖及びむかわ沖）。
- ・ 反応の比較的強い水深は250～350m付近。
- ・ 水深300m付近で着底トロールを行った結果、漁獲されたスケトウダラの体長（尾叉長）は、40cm前後が主体であった。

1. スケトウダラとみられる魚群は、調査海域全域で分布がみられましたが、その中でも胆振沖の184～185漁区（登別沖）、172漁区（むかわ沖）には強い反応がみられました（図1・2）。
2. 渡島から胆振にかけての平均反応量は、昨年同期を大幅に上回り、2014年度（調査は2015年1月）以降では、最も高い値となりました（図3）。
3. 魚群反応は、水深50～500mの広い範囲で観察されました。その中でも水深250～350m付近に比較的強い反応がみられました（図4）なお、渡島沖（C～Hライン）では海底に張り付いた反応が主体になっていましたが、胆振～日高沖（Iライン以東）にかけては海底から離れた（浮いた）反応もみられました（図2）。
4. 渡島沖（北緯42°ライン沖）の水深300m付近（図1：右上図）で着底トロールによる漁獲調査を行った結果、漁獲されたスケトウダラは尾叉長30～45cmが主体で、40cm付近にモードがみられる組成となっていました（図5）。成熟状態を調べた結果、メスで約3割、オスで約半数が未熟（未成魚）でしたが、成魚ではメス・オスともにまだ産卵（放精）前の個体が主体となっていました（図6）。ただし、トロールを行った地点が刺し網漁場よりも沖合であったことから、刺し網漁場に分布するスケトウダラはもう少し成熟が進んでいる可能性が高いものと考えられます。

なお、今年度のスケトウダラニュースは本号で終了となります。

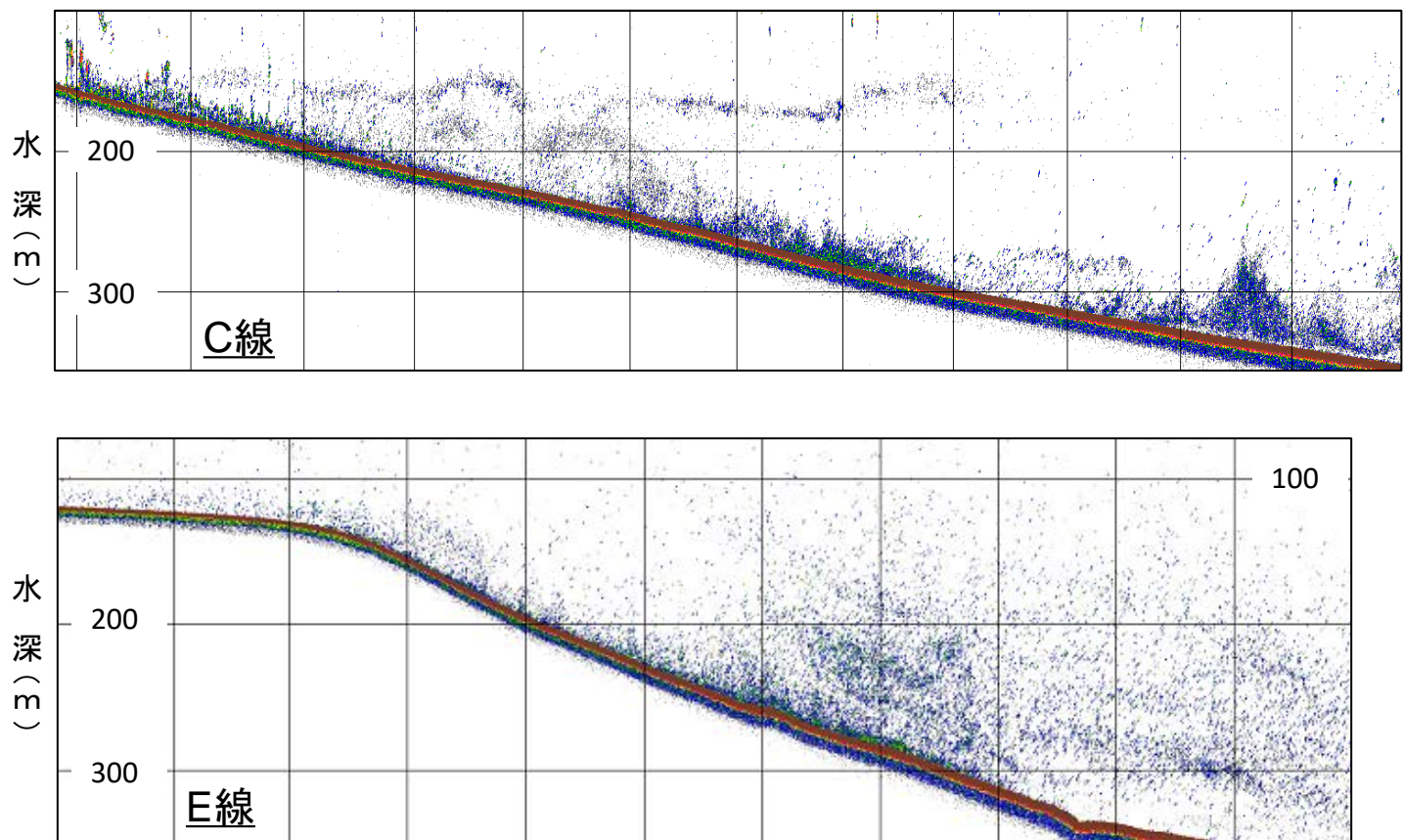
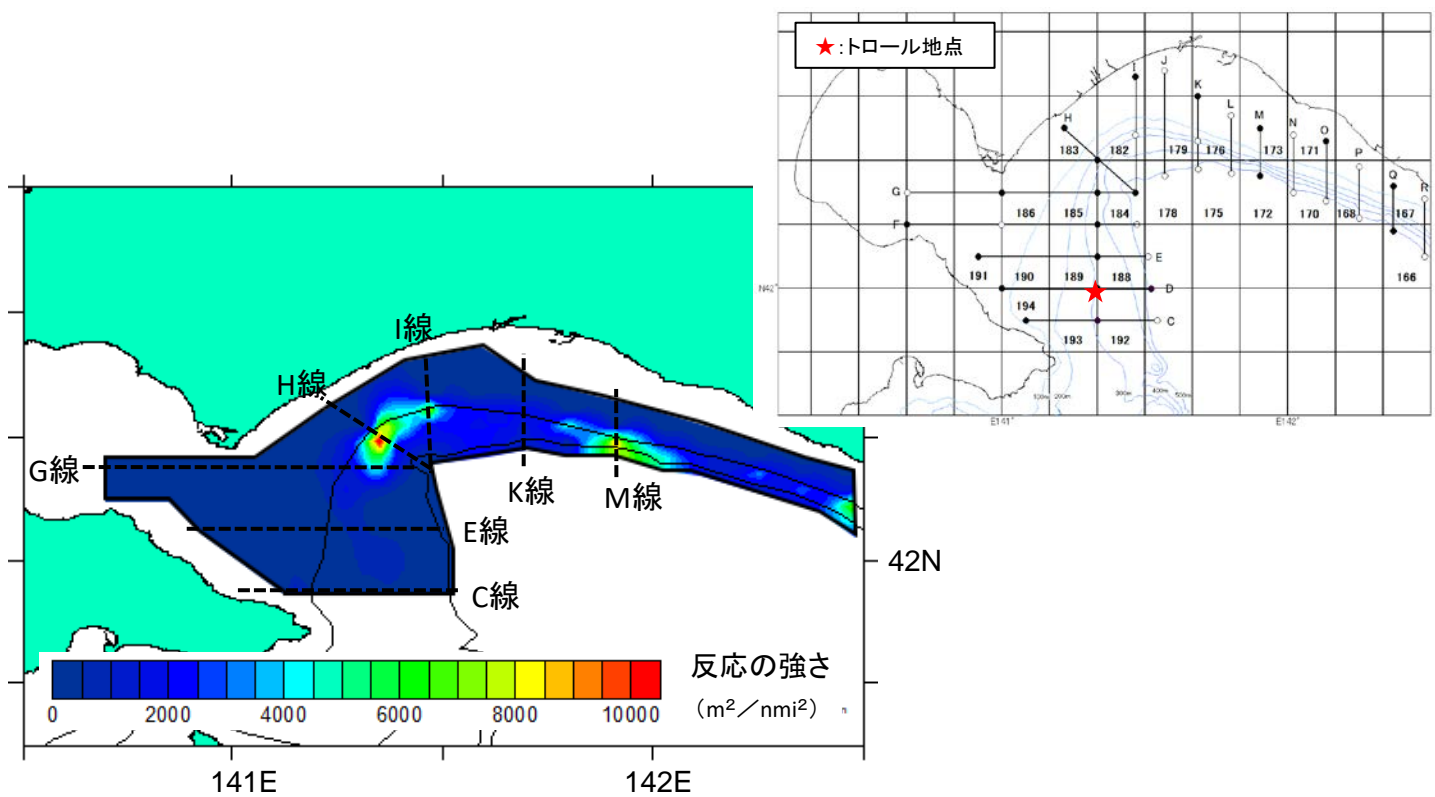


図2-1 魚群の分布状況(計量魚探画像)
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

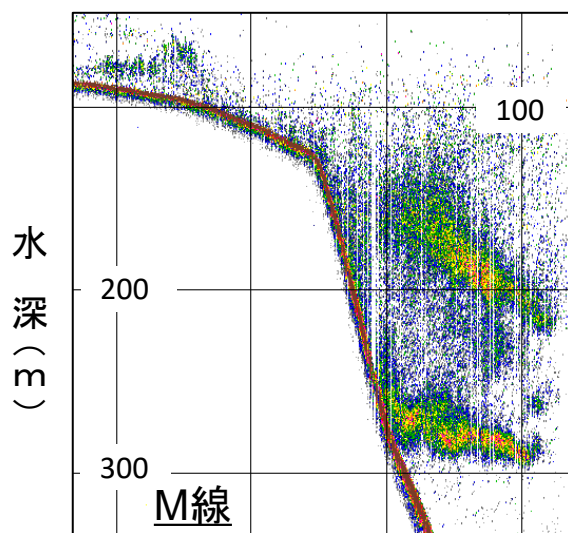
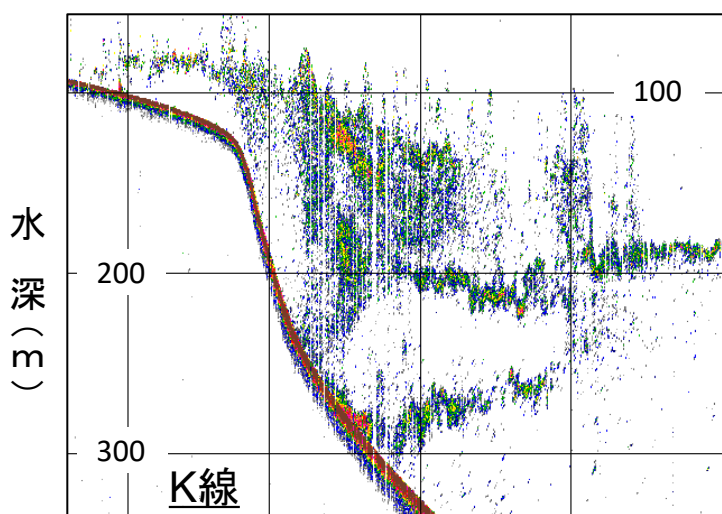
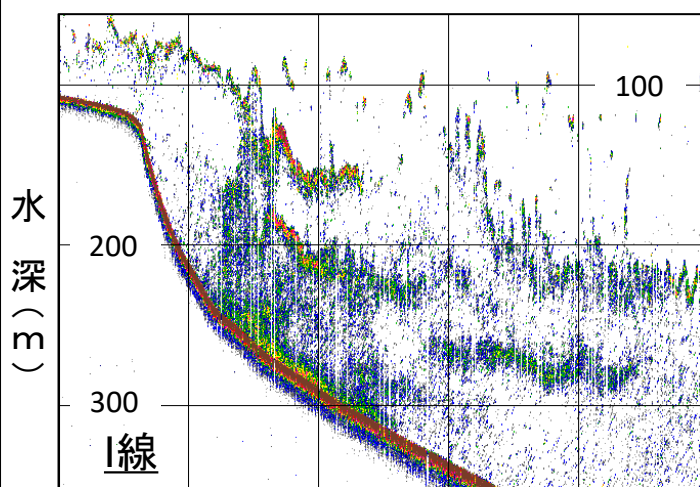
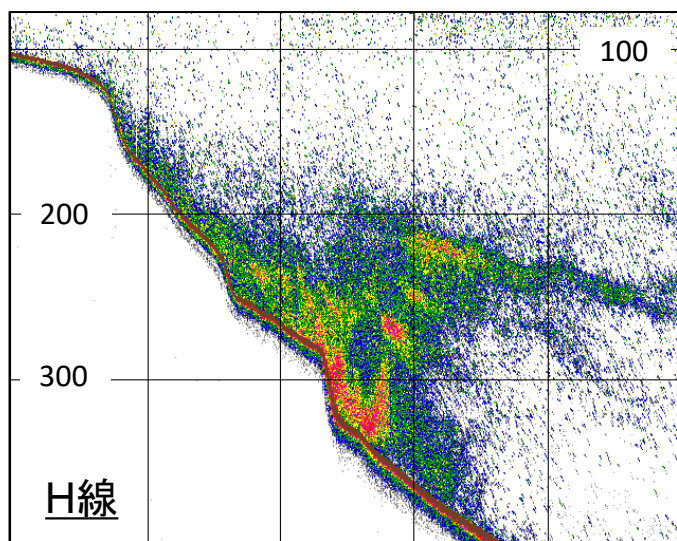
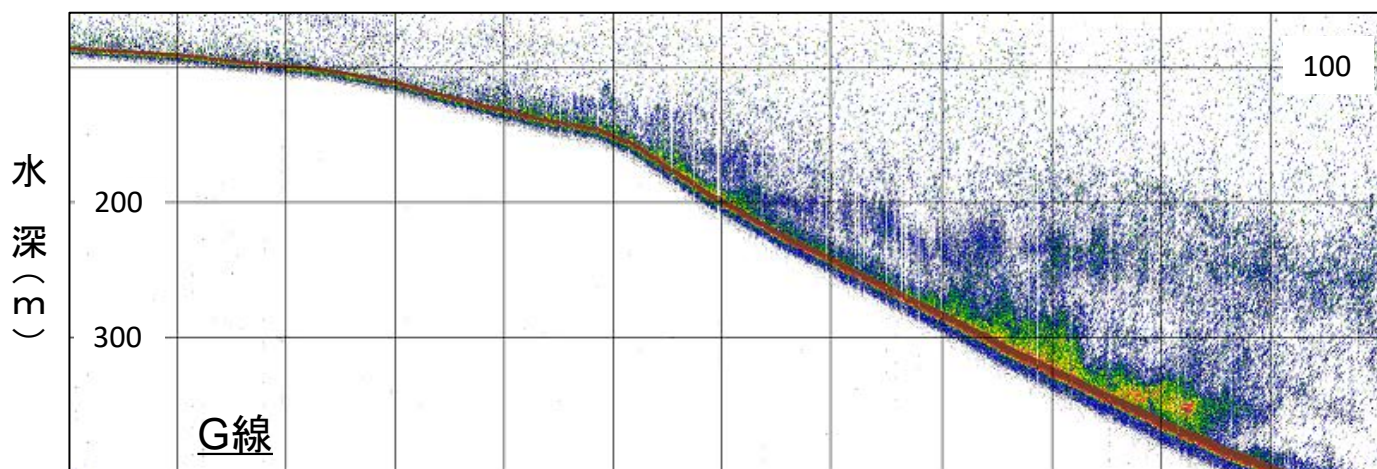


図2-2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

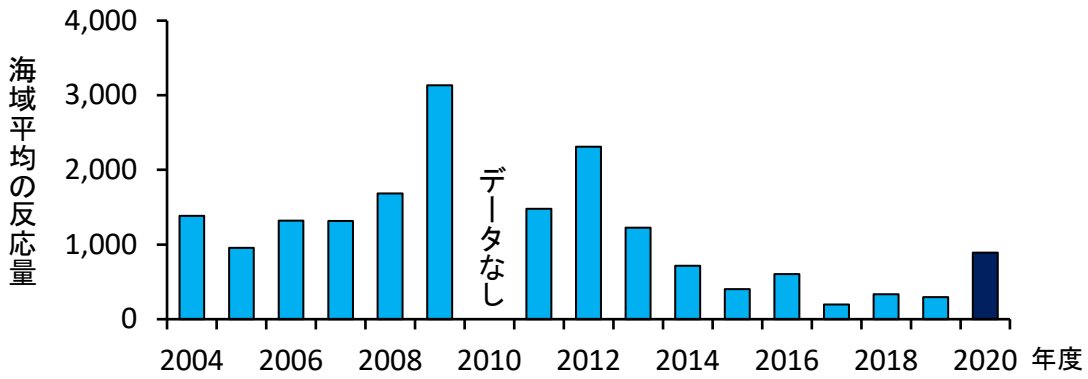


図3 調査海域における魚探反応量の推移

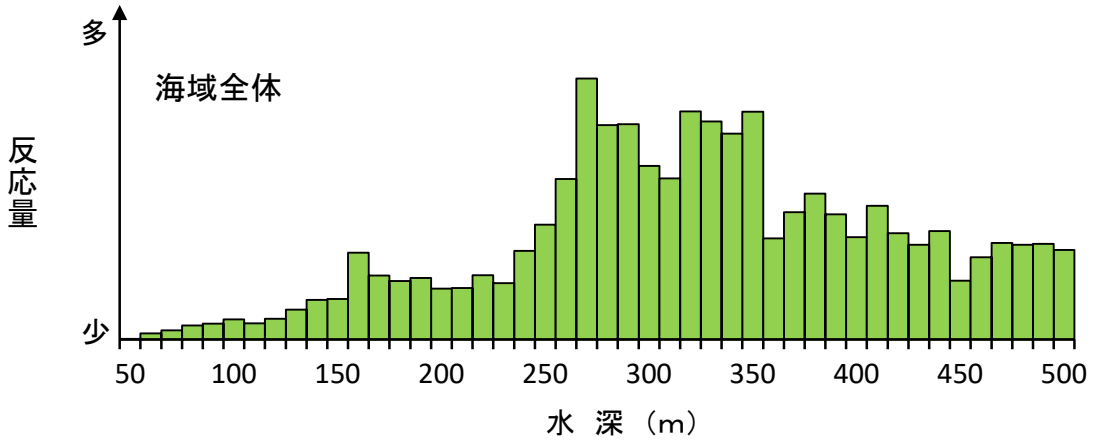


図4 水深別の魚探反応量

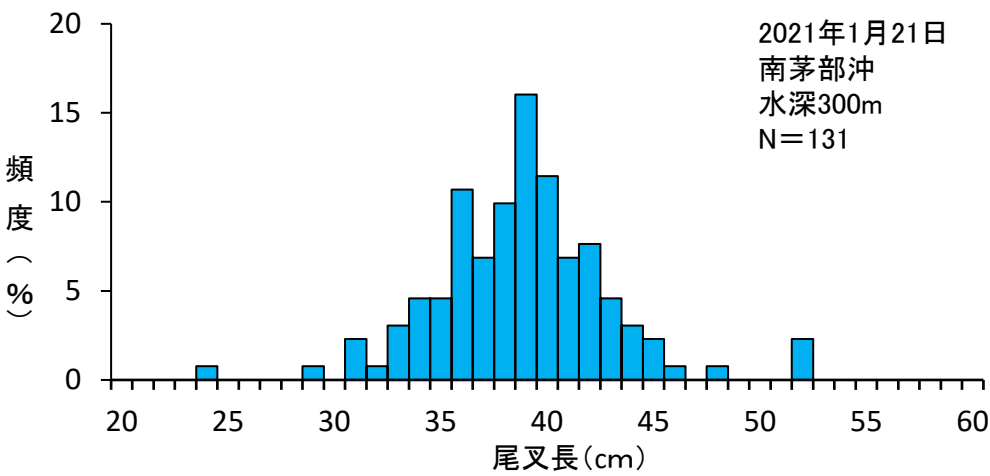
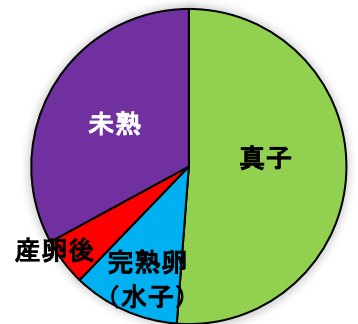


図5 漁獲物の体長組成

メス



オス

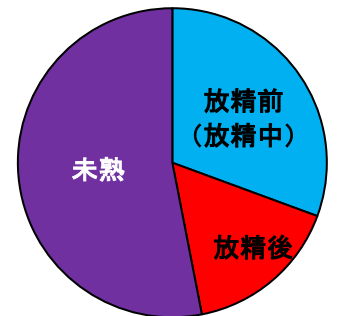


図6 漁獲物の成熟状態
上:メス, 下:オス